

「JENESYS2023」中国農村青年幹部代表団の記録

1. プログラム概要

【目的】本事業は、「観光による過疎地域の活性化」をテーマに、中国の農村青年幹部（大学生村官）を訪日招聘し、テーマに関する視察・交流等を通じて、日本の青年や市民との親睦を深めるほか、日本の経済、社会、文化、歴史等に関する視察や地方都市の参観を通じて、多面的な日本理解につながる活動を行い、対日理解を促進することを目的として実施しました。

【参加者】中国の農村青年幹部等 30 名

【訪問地】東京都、長野県

【日程】

■ プレプログラム 2023 年 8 月 24 日（木） オンライン事前オリエンテーション

■ 招へいプログラム

2023 年 8 月 29 日（火）～2023 年 9 月 2 日（土）4 泊 5 日

日にち	概要
8 月 24 日 プレプログラム	【オンライン事前オリエンテーション】 ①主催者代表挨拶 ②随行事務局紹介 ③視察先関係者との交流 ④訪日日程説明 ⑤注意事項説明 ⑥アンケート・対外発信・アクションプラン説明 ⑦質疑応答
1 日目 8 月 29 日	羽田空港より入国 東京タワー視察 【歓迎会】
2 日目 8 月 30 日	長野県へ移動 【講義聴講】 ながの農業協同組合 ①ブリーフ「JA 農業協同組合について」 ②質疑応答 【視察】 道の駅「花の駅千曲川」 ①道の駅の役割、及び「花の駅千曲川」の取り組み紹介 ②施設見学

3 日目 8 月 31 日	【視察・体験】 なべくら高原・ひぐらし農場 ①じゃがいも農場視察 ②農家と交流 ③観光体験プログラムの紹介、体験（じゃがいも収穫、森林セラピー） ④ブリーフ「地域活性化への取組について」 ⑤ブナの自然での役割、里山保全、森林活動について説明 【視察】 小布施町「町並み修景事業」 ①住民ボランティアより事業の概要などの説明を受けながら町並み視察
4 日目 9 月 1 日	東京へ移動 【視察】 そなエリア東京 ①防災プログラム体験 ②施設内参観
5 日目 9 月 2 日	皇居・二重橋視察 【日本文化体験】 藍染め体験 羽田空港より帰国

2. 記録写真



2023 年 8 月 30 日【講義聴講】
ながの農業協同組合「JA 農業協同組合について」



2023 年 8 月 30 日【視察】
道の駅「花の駅千曲川」



2023 年 8 月 31 日【視察・体験】
なべくら高原・ひぐらし農場



2023 年 8 月 31 日【視察】
小布施町「町並み修景事業」



2023 年 9 月 1 日【視察】
そなエリア東京



2023 年 9 月 1 日【歓送報告会】
団員による感想・アクションプラン発表

3. 参加者の感想（抜粋）

◆今回の交流学习では、農村再生や観光開発における日本の取組みについて視察しました。日本農業協同組合、略称農協は、アジアで最も成功している農業協同組合の一つであり、農村行政区域に応じた統合農協設立の典型例です。道の駅は、国が強く提唱する地域経済を活性化する新しいモデルであり、周囲の農業や経済とのリンケージ効果で協調的な発展をしています。ひぐらし農場は、自然で安全・安心な青果物づくりに力を入れており、高まる人々のニーズに応え、健康的な食生活に重要な役割を果たしています。なべくら高原は、地域の資源を最大限に活用し、その特徴を最大限に発揮することで、来場者が四季の移り変わりを感じ、観光客のインスピレーションを喚起し、ストレスフルな生活環境の中で、誰もが自然に親しみ、ストレスを発散し、体と心が喜ぶ空間を持つことができるようにしています。小布施町は、古い通りの保護の典型的なモデルであり、史跡を保存し、歴史と文化を広めながら、包括性と開放性の原則を遵守し、より多くの観光客を魅了し、地域の状況に応じて観光を発展させています。これらはいずれも日本の農村再生から学ぶ価値のある施策です。革新・発展を遂げると同時に重要な伝統も残し、地域経済の牽引や特色ある産業の発展に重要な役割を果たしています。また、日本は防災・減災の経験があり、知識の普及、災害体験、自己防衛、緊急脱出、災害後の生活を統合した、健全な防災システムを構築しており、人々の防災意識を向上させ、災害による人々への被害を最小限に抑えることができます。

◆私の最大の収穫は、日本農業協同組合の関連モデルと、道の駅が日本国民のために設立した、人々が自分で包装し、自分で価格を設定し、自分で生産して販売できるようにした販売モデルです。学ぶ価値があると思います。同時に、日本人の生活習慣、いわば資質が比較的高いこともわかりました。最も顕著な現象の一つは、ゴミの分別とその厳密さであり、自分が出したゴミは持ち帰らなければならない、そのままにしておくことはできません。だから、日本の街路環境はきれいで、散らかることがないのです。今後の農村での仕事において学ぶ価値があります。最後に、ほとんどの日本人はとても友好的で、日中友好の将来の発展に自信を持ちました。中国と日本の関係がますます良くなることを願っています。

◆今回の訪問で、日本農業協同組合や森林セラピーに深く感銘を受けました。面積は小さいが人口が多い日本は、国民の食料需要を確保できていると同時に、余剰分を輸出もしており、これは農業の近代化が非常に進んでいることを証明しています。農業協同組合は、大小すべての農家を組織し、農民の参加協力を通じて、農家の製品と輸出の販売道筋を確保しています。農家の安心感も大きいと思いますし、農家がいかに優れた農産物を栽培するかに注力できるのは、とても科学的だと思います。森の家プロジェクトは、政府と企業によって投資および運営されており、地元の有利な資源の使用を十分に探求し、最大化し、一方では市民に雇用を提供し、一方では都市部の人々が森林と農村地域の生態を感じられるようにしています。さらに重要な一面は、農村を活性化し、より多くの若者が農村に戻って地域建設に従事するよう惹きつけていることで、非常に有望で人道的なプロジェクトです。総じて、上記の二つのプロジェクトと道の駅には、既存の資源を最大限に活用し、統合し、コストを減らし、プロジェクトの利点を十分に発揮するという非常

に大きな共通点があります。

- ◆日本農業協同組合の歴史や経営方法、福祉施策を学び、農協の開発方法や開発コンセプトは学ぶ価値があると思いました。農家に対する経済的支援と技術支援は非常に大きく、農業に従事する農民の懸念を効果的に解決し、農家の生産性と生産意欲も効果的に向上させることができます。道の駅の経営方式もとても参考になりました。中国でも広められる方法だと思います。中国は農民が多く、農地面積は広大で、栽培できる作物も幅広いので、日本で学んだ農業経験を現地の状況に応じて推進することも、中国の農業発展を促進するために有益な活動だと思います。学んだことを帰国後の仕事に活かしていきたいです。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

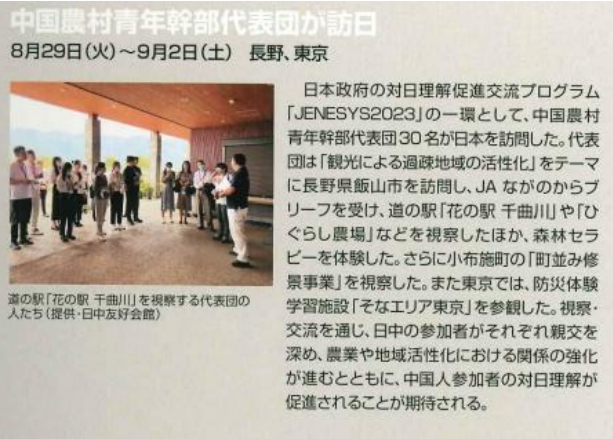
◆（一社）信州いいやま観光局

短い時間ではございましたが、中国のこれからを担う若い皆様と交流できたこと、大変貴重なお時間を頂きました。ありがとうございます。

◆ ながの農業協同組合

飯山市に農業視察いただき、ありがとうございました。約1時間、しかも通訳さんを通したやり取りであり、日本人も「農協」の成り立ちを理解してない中、どのくらい通じたか心配でした。しかし、質問は的を得たものばかりで中国の農業を背負っていく優秀な皆さんだなと感じました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2023 年 9 月 30 日（雑誌「外交」） 「中国農村青年幹部代表団が訪日」 主な訪問先・プログラムを紹介し、「視察・交流」を通じ、日中の参加者がそれぞれ親交を深め、農業や地域活性化における関係の強化が進むと共に、中国人参加者の対日理解が促進されるこ	2023 年 8 月 31 日（中国駐日本国大使館ホームページ） 「中国駐日本国大使館張漪波公使参事官が中国農村青年幹部代表団の訪日歓迎会に出席」 張漪波 中華人民共和國駐日本国大使館公使参事官の挨拶と小川正史 公益財団法人日中友好

とが期待される」とした。	会館理事長の挨拶を紹介。
--------------	--------------

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表

	
【訪日中の学び】 一村一品運動、観光農業産業、農業協同組合など、多くの刺激を受けました。実際に訪れて、作物、畜産、花などに加え、農村が独自の文化を創造していることに気がきました。 【アクション・プラン】 日本語学習を始めて、日本文化への理解を深めます。	【訪日中の学び】 「街づくり」は民主的で人を中心に据えていました。レジャー農業の発展では、レジャーと体験の実践は非常に素晴らしく、単なる観光を超えた、より高いレベルにあると感じました。 【アクション・プラン】 見たり聞いたりしたことを、中国の農村建設の実践に活用します。

実施団体名：（公財）日中友好会館